

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業	経常事務事業	建設事務事業
--------	--------	--------

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連		有	無
<input type="checkbox"/>	有		
<input checked="" type="checkbox"/>	無		

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	狂犬病対策予防接種事業								
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	環境課	係	環境保全係	評価票作成者	環境保全担当係長 加藤 徹	
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	感染症対策		コード	2 1 3
	項	健康			単位施策(中)	動物由来感染症対策		コード	2 1 3 3
					単位施策(小)	狂犬病対策		コード	2 1 3 3 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	犬を飼育している者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	犬を飼育している者は、狂犬病予防法に基づき登録し、予防接種を毎年行うという法メカニズムを周知することにより、発生リスクや防止の意義を発信することにより、狂犬病の発生を未然防止し、安心な住環境を確保する。				
1-5 事務事業の内容	犬を飼育している者は、狂犬病予防法に基づき登録し、予防接種を毎年行う義務があることから、関係機関・獣医師会等と連携をして予防注射を行い接種率の向上を図っていく。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	登録犬の全頭の予防接種の受検確保	犬が海外から移動する機会が多くなっている。		狂犬病に対する認識の低さがある。	
	平成19年度	狂犬病予防注射の集合注射の受検を確保するために、通知書を早期に発送した。	癒しのために、犬を飼育する者の増大傾向にあるが、狂犬病予防接種に対する意識は高まっていない。		"	
	平成20年度	秋に、今年度未接種の飼い主に対し、注射の案内を再度通知した。	犬を飼いたいと希望する者が増えつつある。		新しく犬を飼おうとする者が、事前に犬の情報を欲している。	
	平成21年度	狂犬病予防注射の集合注射をかつようして、受検率を高める努力をした。	散歩時のフンの始末など、環境美化に反している。		散歩時のフンの始末など、飼い主のモラルが問われている。	
	平成22年度					
	平成23年度					
	平成24年度					
	平成25年度					
	平成26年度					

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	狂犬病予防接種率(%)		80.0(%)	81.0(%)	登録犬のうち予防接種を行った犬の割合を表す指標、全国平均は80%(平成16年度実績)

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(頭)	3315(頭)	3494(頭)	3532(頭)	3,582						
	直接事業費 b(千円)	850	894	1,038	1,842						
	人件費 c(千円)	67	66	66	73						
	合計コスト d(b+c)(千円)	917	960	1,104	1,915						
単位コスト d/a(千円)	当たり 0.28	当たり 0.27	1頭当たり 0.31	1頭当たり0.53	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績...a狂犬病予防注射接種頭数21年度3期保健所報告。b直接事業費...c人件費408000+予防注射済票53550+ふん害看板298200+ふん始末袋220500+印刷124845+はがき代280000+シバ-委託料48150+医師会409000の計1,842,245。c人件費...職員の2%の73140。21年度3期保健所報告登録頭数4,664頭。 指数対応実績 3582/4664=76.8 76.8/81=94.8

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	76.2	77.6	78.4	76.8						
	後期目標値に対する達成度(%)	96.0	95.8	98.0	94.8						

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A						

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているため継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価																																
	平成18年度	接種率が低落傾向にあるため、狂犬病の重大性を知らしめる。	接種率をアップさせる。	毎年80%前後の接種率のため、少し低落傾向にあるといえる。	平成19年度	飼い主に任せた接種では、接種率アップは困難であるので、危険性をPRする必要がある。	接種率をアップさせるために、年度途中で催告通知書を出すようにする。	犬の体調不良で接種できない飼い主に対し、受診し「猶予証明書」の提出を依頼し、24件届出があった。	平成20年度	飼い主に対し、密接な連絡をとることにより接種するように注意喚起する必要がある。	個々の飼い主に対し、犬の状況(死亡・健康状態等)を市へ連絡するようにさせる。	市が管理している飼い犬情報を精査し、既に死亡している犬等の情報を整理した。	平成21年度	接種率の向上のため、狂犬病の恐怖を知らしめる。	未接種者に接種の呼び掛け通知をする。	犬の体調不良で接種できない飼い主に対し、猶予中の事故に注意をうながす。	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				平成27年度		

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	接種率の向上に努めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			